Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●C.ルメール騎手が年間100勝と通算1900勝を達成

８月17日(土)の３回新潟３日・第９レースとして行われた瀬波温泉特別ではジャスパーロブストが１着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は、自身10年連続10回目、今年度１人目となるＪＲＡ年間100勝を達成しました。さらにルメール騎手は翌18日(日)の３回新潟４日・第２レースでシルバーレインに騎乗して優勝し、史上11人目・現役５人目となるＪＲＡ通算1900勝を達成しました。8690戦目での1900勝達成で、これは武豊騎手の9705戦目を上回る史上最少騎乗回数での達成となります。

●石川裕紀人騎手が通算300勝、相沢郁調教師が通算500勝を達成

８月18日(日)の３回新潟４日・第１レースではミラーダカリエンテが１着となり、同馬に騎乗した石川裕紀人騎手(美浦・相沢郁厩舎)は、現役47人目となるＪＲＡ通算300勝(5529戦目)を達成しました。またこの勝利により同馬を管理する相沢郁調教師(美浦)は、現役27人目となるＪＲＡ通算500勝(延べ7390頭目)を達成しました。

●松下武士調教師がＪＲＡ通算200勝を達成

８月18日(日)の２回中京４日・第５レースではビップデイジーが１着となり、同馬を管理する松下武士調教師(栗東)は、現役108人目となるＪＲＡ通算200勝(延べ2730頭目)を達成しました。

●イシノサンデーが死亡

８月18日(日)、イシノサンデー(31歳)が老衰のため死亡しました。同馬は1996年皐月賞(ＧⅠ)を制するなどＪＲＡ通算19戦５勝・地方３戦１勝の成績を残して引退。種牡馬としては東京湾カップ(船橋・重賞)勝ち馬イシノファミリーなどを出し、種牡馬からも引退した後は日本軽種馬協会静内種馬場に繋養され余生を送っていました。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●フークピグマリオンが東海三冠を達成【各地の主要３歳重賞】

岐阜金賞(８月14日、笠松、1900㍍)は、４番手前後から３コーナー過ぎに先頭に立った単勝1.3倍で圧倒的人気のフークピグマリオン(騸、父ラニ)が、直線で大きく外によれたため後続に迫られながらもハナ差で振り切り、史上６頭目(現行の体系となってからは３頭目)の東海地区三冠を達成しました。岩手版オークスのひまわり賞(８月11日、盛岡、1800㍍、牝馬)は、逃げた２番人気のコモリリーガル(父バトルプラン)が５馬身差で圧勝。黒潮盃(８月14日、大井、1800㍍)は、後方から向正面で位置取りを上げたダテノショウグン(牡、父バンブーエール)が直線に入って間もなく抜け出し、単勝1.1倍の支持に応えてデビュー以来の連勝を７に伸ばしています。

●ブリーダーズゴールドＣ(門別)に無敗馬オーサムリザルトが登場

ブリーダーズゴールドＣ(ＪｐｎⅢ、８月27日、門別、2000㍍)は、６戦全勝のオーサムリザルトが中心、サーマルソアリングが続き、シダー、デリカダ、エナハツホまでが争覇圏内と考えられます。

●テイエムトッキュウらが参戦、８月29日のサマーチャンピオン

サマーチャンピオン(ＪｐｎⅢ、８月29日、佐賀、1400㍍)は、距離が鍵も58.5㌔のテイエムトッキュウが筆頭格、以下昨年の覇者で59㌔のサンライズホーク、タイガーインディ(兵庫)、メイショウテンスイ、トップハンデ60㌔のラプタス、コパノパサディナの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１インターナショナルＳ～シティオブトロイが逃げ切る

現地８月21日にイギリスのヨーク競馬場で行われたＧ１インターナショナルＳ(３歳上、芝2050㍍)は、R.ムーア騎手を背に逃げたシティオブトロイ(牡３歳、父ジャスティファイ、愛A.オブライエン厩舎)が優勝しました。重賞３連勝で臨んだフランスのカランダガンが１馬身差の２着。日本から参戦したドゥレッツァは３番手で直線に向きましたが、そこから伸び切れず５着に終わりました。2009年の同レースでシーザスターズが記録したコースレコードを０秒97も更新する２分04秒32で勝利したシティオブトロイはこれで英ダービー(芝2410㍍)、エクリプスＳ(芝1990㍍)に続くＧ１・３連勝です。

●25戦25勝の名牝ブラックキャビアが死亡

オーストラリアの名牝ブラックキャビア(父ベルエスプリ)が８月17日に死亡しました。父スニッツェルの牡馬を同日に出産した後、蹄葉炎のため安楽死の措置がとられたものです(産んだばかりの仔もその後に死亡)。18歳。P.ムーディー調教師が管理したブラックキャビアは通算25戦25勝で、Ｇ１は２勝したT.J.スミスＳ(芝1200㍍)、58㌔を背負いながら３馬身差で快勝したニューマーケットＨ(芝1200㍍)、そしてイギリスのダイヤモンドジュビリーＳ(芝1200㍍)を含む15勝。豪年度代表馬にも2010／11年から３シーズン連続して輝きました。繁殖牝馬としてはまだ目立った産駒はいませんが、プリンスオブキャビア(父シーブリング、１勝)は種牡馬として供用中で、３頭が繁殖牝馬となっています。